

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では重要啓発種に指定され、枕崎市、種子島、奄美大島、徳之島で確認されています。在来種の駆逐や海岸植生の改変などの生態系への影響が確認されています。栽培していたものなどが野外に逸出して分布拡大するので、栽培しないようにしましょう。

1 基本情報		
分類		
目・科名	キク科	
種名(亜種名)	アメリカハマグルマ	
学名	<i>Sphagneticola trilobata</i>	
環境省カテゴリー	緊急対策外来種	
県カテゴリー	重点啓発種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内の生態系等に大きな影響を与える又は与えるおそれのある外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	熱帯アメリカ	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	枕崎市、種子島、奄美大島、徳之島	
全国の侵入分布	枕崎市、種子島、奄美大島、沖縄諸島各地	
生態学的特性		
生態	日当たりの良いところに生え、時に林床や海岸域にも入り込む。繁殖力が強い。	
形態	高さ40～50cmの多年生草本。茎は地上を這い、粗い剛毛がある。葉には不規則な鋸歯がある。頭状花は直径2～4cm、舌状花は黄色で8～13個。	
繁殖形態	繁殖力のある種子はあまり作らない。地面に接した茎や、破片から根を出して増える。	
生息環境	熱帯～亜熱帯の農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地に生育。日向を好むが、耐陰性もある。	
特記事項	—	

(環境省奄美自然保護官事務所 提供)

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物を駆逐。生態系に影響(海岸植生などの改変)。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物を駆逐。海岸植生などの改変。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①繁殖能力の高さ。海岸植生などの改変。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
アメリカハマグルマとの関わり方	栽培していたものなどが野外に逸出して分布拡大しています。栽培しないようにしましょう。
見分け方	アメリカハマグルマは、高さ40～50cmの多年生草本。葉は長さ4～9cm、幅2～5cm、不規則な鋸歯がある。類似種であるクマノギクは、高さ20～30cmと、アメリカハマグルマより小さい。葉は長さ約5cmで、平たくて細長く、先のほうがとがり、基部のほうがやや広い(披針形)。
見かけやすい場所・時間	熱帯～亜熱帯の農耕地、海岸、自然林、植林地、草原、河原、低木林、市街地と様々な環境に生育する。
防除方法	抜き取りによる防除。 刈り取ると断片から発根しクローンが広がる危険性があるので行わないこと。
防除の取組事例	奄美大島で、2016年6月4日に、奄美大島エコツアーガイド連絡協議会主催による駆除が行われた。 徳之島で、2016年3月5日に、徳之島町による駆除が行われた。
その他	緑化資材として使用しないことで、本種が他の地域に拡げないようにしましょう。
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/81230.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 南海日日新聞 2016年6月4日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20160604-3 奄美新聞 2016年3月5日記事 http://amamishimbun.co.jp/index.php?QBlog-20160305-1&mode=category&catname=%E5%BE%B3%E4%B9%8B%E5%B3%B6%E9%80%9A%E4%BF%A1 財団法人自然環境研究センター(2008)日本の外来生物. 平凡社. 東京